

# 震災 26 年目の 1 月 17 日，そして未来へつなぐ

## ～防災への取り組み～

芦屋市立打出保育所

『阪神・淡路大震災』から 26 年目の 1 月 17 日を迎えました。

毎年，保育所・こども園の子どもたちは震災を経験した職員から当時の様子を聞き，亡くなった方へおもいをよせてきました。しかし，震災を知らない若い職員も増え，記憶や経験を語り伝えるだけでなく，震災で得た命の大切さ・人とのつながり・災害に対する準備を，震災を知らない世代や子どもたちにどのように伝えバトンをつないでいくか，改めて考えてみたいと思いました。

～三八通商店街～



震災当時“布袋さんのお水”がとても貴重でした。訪れた時いつも丁寧にお話をしてくださいませ。地域の方とのつながりを大切にしたいです。



震災モニュメントマップ



芦屋市内の震災モニュメントや関連する場所を保育士や子どもたちがそれぞれ訪れ，まずは震災を“自分で知る・感じる”体験をしました。

～芦屋市立宮川小学校～



5 歳児



～兵庫県立芦屋高等学校～

「これ(慰霊碑)は地震の形なんだよ。」と教えてくれた子ども。昨年の震災の話をずっと覚えてくれていました。

## 《震災のお話》

## 《避難訓練》



小さな子どもたちも毎月の避難訓練に参加しています。防災頭巾をかぶる練習もしています。

「震災のお話」の後，年長児は思ったことを話し合いました。(抜粋)

- ・死んだ人はかわいそうと思った。6400 人と聞いてびっくりした。
- ・話を聞いて怖かった。死んでしまった人に会いたい，と思った。
- ・地震が起きたらと心配になった。でも勇気をだして頑張りたいと思った。
- ・みんな，生きていてほしかった。地震の時の練習をお家でもしたい。
- ・お水や食べ物を置いておきたいと思った。
- ・先生が生きてよかったと思った。力を合わせてみんなで命を守る。
- ・みんなを守りたい。消防士になりたい。・ところが大事と/い/が/言/っ/て/い/た。
- ・水をたくさん貯めておいて，ホースで火を消したらいいと思う。消防士さんみたいに。



慰霊碑を訪れ，被災の話を直接聞くことで，子どもたちは自分なりに震災について感じたことを一生懸命考え，伝え合っていました。「震災は知らないけれど，こういうことがあったんだよ」，「震災が起きた時のために〇〇をしておいた方がいいんじゃない？」と，日常の中でも話し合えることが防災への第一歩だと思います。これからも震災経験を伝え続けていきます。